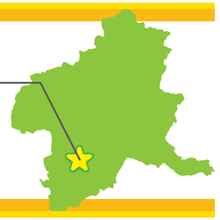
住民の絆と連携で住み良い地域づくりを目指す

かのはら・ふれあいネットワーク

富岡市



安心安全に暮らせる地域づくりを目指し、子どもの見守りや地区の巡回パトロール、遊歩道整備など、神農原（かのはら）地区独自の結束力を駆使しての活動は、地域を力強く支えている。

子どもたちの強い味方「見守り隊」

遊歩道を舗装し、地域の環境整備に大きく貢献

●活動内容

婦人会や育成会、老人クラブ、子ども会、関係機関の代表者などをネットワークで結び、地域の安心安全を守る活動をしており、知恵や経験を地域のために役立てたいと思うシニアたちの集まりだ。

小学校低学年児童の下校時に付き添い、安全を守る「見守り隊」や、自警団と連携して地区内を徒歩で巡回する夜のパトロールは、空き巣などの被害が多発した時期、地区住民の不安に応える形で始まった。

また、警察署から講師を迎えて青少年の非行防止や犯罪抑止、交通安全に関する講話や実地指導も実施。

台風災害時には、土砂に埋もれた家屋の復旧作業をして、地域住民の安全確保に尽力。平成19年から6年をかけ、「ふれあいの小路・いきいき快道」の遊歩道を舗装整備。他にも、児童公園の管理や通学路の点検整備、高齢化による農家の休耕地整備、駅周辺の花壇整備など、精力的に活動している。

行政や地域の団体、住民と連携してボランティア活動をする。文化祭や夏祭りなど「ふれあいの場」となるイベントも主催し、子どもから高齢者まで、世代を超えた交流を大切にしている。

●事業を始めたきっかけ

平成12年に富岡市が「まなびの里、生涯学習都市、とみおか」を宣言し、市民に生涯学習の機運が高まった。そうした状況で「生涯学習や奉仕活動を通じて、住民のふれあいができれば、調和や絆も深まり、安全で安心して暮らせる住み良い地域づくりができるのでは」との意見が住民から多く寄せられた。

この神農原地区には、昔から18歳から40歳までが入る自警団があり、地区のために協力して助け合うことが当たり前という風習があった。現在事務局長を務める新井恒好さん（66）は、自分が40歳を過ぎて自警団を離れた後、自警団卒業者が活躍できる団体「神友会」を作った。現在このメンバーはシニア世代となり、地区全体を見守る「親」のような存在として、地域の人々からとても頼りにされている。

以前から、住民の調和や絆をどのように形成するかを模索してきた区長を中心に「神友会」のメンバーが発起人となり「かのはら・ふれあいネットワーク」を設立し、活動を始めた。

公園を整備。地域の親子連れに感謝されている

イベントの概要を参加者に説明する

●工夫している点・特長

この地区では、昔から年齢に関係なく地域のために協力し、助け合ってきたため、住民同士の結束力が自然と強くなり、絆が育まれていた。その延長線上で「かのはら・ふれあいネットワーク」を設立した時も、婦人会や育成会、老人クラブが一体となって協力することが自然にできる団体になった。

「自分たちの負担にならないように行うこと」、「世代間のつながりを形成し、地域の絆を持ち続けること」を目標として、日々活動している。

こうした特色により、行政から防犯活動、地域づくりなどに関する協力や講演を頼まれることも多い。地域づくりや環境整備などの、事業補助を受けていることも活動の一助となっている。

地域のことを良く知るシニア世代の視点が、会を運営する上でとても役立っている。「安全で安心して暮らせる住みよい地域づくり」を目指し、地域の小さな声にも耳を傾けて対応することで、地域住民が気軽に相談でき、一体となって協力する良い環境が生まれている。

〈やりがい・楽しみ〉

小学生の見守り活動は、下校時に学校へ迎えに行き、児童と見守り隊が一緒に帰宅する。平成17年から始まったこの活動は、普段子どもと話す機会のない高齢者が、子どもとの触れ合いを楽しむことができる貴重な時間だ。道中の会話は、高齢者にとって、とても楽しく、元気がでる。低学年を対象としているため、「小さかったあの子がこんなにも大きくなって」と、まるで自分の孫の成長を見守るようで、地域の人たちの活力にもつながっている。

基礎データ

☎0274-63-1504
かのはら・ふれあいネットワーク（事務局）

事業開始時期／平成13年

主な活動／
小学生の見守り
防犯パトロール
環境整備など

人数・年齢／
約300名　10～80代